

# ほんまぢ

5 月 園だより

令和 2年 5月 14 日

渋谷区立本町幼稚園発行

<https://www.fureai-cloud.jp/hon-yo/>

## 今できることを

園長 森山未来

季節は、新緑と若葉の頃となり、こどもの日の 5 月 5 日には、立夏を迎えました。園庭の桜は早緑色の葉ですっかり覆われました。静まり返った園庭に佇むと、あそこに、ここに、子供たちがいるような錯覚を覚えます。一方、地面に目を転じると、ひっそりと自粛する人間たちをよそに、植物も小さな生き物も、生き生きと活動する姿を見ることができます。アリたちは巣穴を拡大させ、ダンゴムシは身を寄せ合って仲間を増やしています(コドモタチニツカマラナイネ! ドウシタノカナ?)。自然体とは、まさにこの状態。様々なことを案じたり、憂いたり、不安になったりすることが多い中、自然の営みから私たちの日々の在りようを教わる気がしました。自分にできることを丁寧に確実に続けること、そして、些細なことにも喜びを見出し、未来に希望をもち続けること…大事ですね(ダイジダイジ!)

今、困難な状況と対峙し、不安や不穏が増幅する中で、“私が主体となる”ということが、いかに大切であるかということを示される思いです。様々な情報が錯綜していますが、知恵を尽くして考え、心を働かせて想像し、決断し、やり抜き、乗り越えていく…この営みは全て、他人事ではなく自分事です。自分を取り巻くつながりや支えを糧として、生活や学びを自分軸で積み重ねていくことが、よりよく自分自身を生きる源になります。そして、この社会をよりよく生きるためには、他者の存在が不可欠です。私たち人間は、いつも強いわけではありませんね。時に、自分自身の痛みや弱さを知るから、他者の痛みや弱さにも共感(empathy)でき、その人の思いに寄り添い、自分事として行動する器へと成長できるのだらうと思います。

小学校以降の児童・生徒の学習を止めないために、様々な取り組みや工夫が勘案されていますが、幼稚園の教育についても、幼児にとって本当に大切なことが何であるのか、この機会にしっかりと見つめていきたいと思っています。

休園期間が延長となり、5 月末まで友達や先生と直接会うことができなくなってしまいました。直接触れ合うことで得られる人との関わりは、かけがえのないものです。しかし、人と関わる機会が奪われたとしても、「人」を知ることは可能です。何気ない家族との会話から、言葉や人の温かみを知ることはできるはずです。また、絵本を見る時間をつくることもできます。自分で字を読むお子さんにも、ぜひ、読み聞かせをしてあげてください。子供たちは、絵本の中で、たくさんの知らない人に出会うことができるでしょう。話すこともできます。どうして?なんで?どうなっちゃうの?等々、自分の中に問いを立てながら、思うこと、考えることに浸ってほしいです。わくわくする楽しさだけでなく、得も言えぬ恐怖や物語から不条理を感じるかもしれません。子供たちに、今だからできる教育が絵本や物語との出会いだとしたら、これは子供たちにとって一生の財産になりますね。大人も、絵本に癒されたり、励まされたり、気付かされたりすることがあるのだらうと思います。それぞれの場所に留まって、子供への教育の視点を見失わずに、今できることを実行していきましょう。

**幼稚園の再開、そして皆さんに再会できる日を心より願っています!!**

